

小論文

解答例

第1期～第5期、いずれも論文形式の設題であるため、具体的な解答例を示すことはできません。下記の出題趣旨の説明をもってこれに代えます。

第1期 出題趣旨

小論文1

ハラスメント対策は現代の大課題である。ハラスメントの定義は嫌がらせであるが、嫌がらせというのは人から人への働きかけである。働きかけであってみれば、その程度や有り様によっては、人間生活に喜びをもたらすことがあり得る。男性と女性の関係に目を向けると、たとえば男性が特定の女性にしつこくつきまとえば、ハラスメントと断定されることがあるだろう。

しかし、男性が女性に何度も交際を申し込み、苦勞の末に相手の気持ちを動かし、やがては相思相愛の幸福な結婚生活をおくるというのは、両性関係形成におけるありふれた現象である。これとハラスメントとの区別を踏まえたうえで、ドヌーブらの意見が持ち得る意味を考察してほしい。

セクシャルハラスメントにおいては、それまでの人間関係が原因となってそれぞれの案件に個性が生じると推測されるが、パワーハラスメントの場合においても、それまでの家庭教育、社会教育のあり方の違いによって若者の圧力耐性に差が出てくるものと思われる。教員がその差を感知できなければ、思わぬパワハラを生じるであろう。以上述べたところに留まらず、自由な思索の展開を期待する。

小論文2

小論文2の課題文は、遮断機も警報機もない第4種踏切で、死亡事故が多発している状況を指摘し、第4種踏切の危険性に対する改善策について提言を行うものであるが、この課題文を素材に、第4種踏切とはどのような踏切で、どのような問題があるのかを、具体例を挙げて説明してもらうとともに、第4種踏切の問題を解消するための取り組みについて、課題文の提言をまとめた上で、解答者の考えを記述してもらう問題である。

課題文の内容とその見解についての読解力、読み取った内容の表現力、課題文の見解に対する解答者の考えの内容やその表現力を評価の対象とする出題である。

第2期 出題趣旨

小論文1

剣道では、まず竹刀を大きく振りかぶって真っ直ぐ面を打つのが基本である。これを何度も繰り返して、しっかり打てるようになってから、徐々に実践に対応できるような業を身につけて行く。

たとえば、竹刀を大きく振りかぶったのでは相手に小手が見えるので、そこを狙われることになる。それを防ぐために、大きく振りかぶらないで小さく打つのであるが、初めから小さな面打ちしか練習していない者のメンは、レベルの高い試合では、なかなか有効打突として認めて貰えない。問題文に登場する太堂監督は、清水選手の素質を見抜き、基本的なところから鍛え直したいと考えている。それに対して、スカウト役のコーチは、剣道部の現状を考慮して、即戦力になる選手を探している。清水選手が大学卒業後にどこまで成長できるかは疑問であるが、そこまで配慮するのは自分の役目ではないという認識であろう。

剣道に素材を求めた出題であるが、受験者には自分が学業に取り組む際の姿勢に思いを致してもらいたいものである。

小論文2

子どもに運動習慣を付けさせる活動に関する課題文を題材とした問題である。課題文は、運動が苦手な子どもに「しっぽ取り」という遊びをさせた取組みを紹介している。

この遊びは競争性が少なく、他人と比較されないことで、運動が苦手な子どもでも楽しく身体を動かせるものである。この「しっぽ取り」の特徴を挙げた上で、子どもに運動習慣を付けさせる方策について適切に説明することが求められる。

第3期 出題趣旨

小論文1

無用の行為の意味を考えてもらう問題である。納税はe-Taxの方向に向かっているし、印刷した申告用紙を郵送する方法もある。したがって、わざわざ税務署に出向かなくても、納税義務は果たすことができる。税務署に足を運び順番を待っていたのでは時間を余計に取られるのでそれを節約しようとするのは合理的である。

しかし、時間を節約したのでは、それまで得られていた満足感は得られなくなる。納税義務を果たしたことの喜びを税務署職員と相対することで体感したいという希望も果たされないであろう。

札勘定のけじめに札を弾いて音を出すという行為には、その時点で10枚なら10枚の勘定を終えたことを明確に認識させるという役割が期待できる。仮に勘定終了の認識にとっ

てパチンという音が不要であるとしても、札勘定の技術を習得できたという喜びにつながるであろう。それは札を正確に勘定するという目的とは結び付かない。

しかし、パチンという音を出せるようになることで、自分も一人前になったことを実感できるであろう。このように、目的との関係で無用の行為にも、社会（職業）生活を営む上で心地よさを提供する働きが認められることがある。

小論文 2

小論文 2 の課題文は、閉店が相次ぎ、店舗数が急速に減少してきている現在の書店をめぐる状況を説明し、そのような状況に対するさまざまな改革の取り組みを紹介するとともに、書店の今後のあり方について、読者に問いかけるものであるが、この課題文を素材に、書店の閉店が相次ぐ背景についての解答者の見解と、「私たちそれぞれが思い浮かべる店がなくなることを想像する時、何を惜しむのか。書店を守ること、地域や自分のどんな未来を期待するのか」との課題文の問いかけに対する解答者の回答を記述してもらう問題である。

課題文の内容とその見解についての読解力、読み取った内容の表現力、課題文の問いかけに対する解答者の回答の内容やその表現力を評価の対象とする出題である。

第 4 期 出題趣旨

小論文 1

コロナ禍以降、セルフレジの店舗や無人店舗が増えている。これには、IT 機器の発展が一役買っている。スマートフォンやコンピュータと連動した高性能監視カメラ、現金を使用しないセルフレジの存在が、店員を減らした効率的な店舗運営を可能にさせる。

日本には古くから、畑の一角などで、野菜、果物、花などを販売する無人店舗が多くみられる。このような昔ながらの無人店舗における大きな問題は、商品の万引きや売上金の盗取である。法律は不正・不当な行為を抑制しうるが、法律があっても、現実には救われない弱者も存在する。本問の A のような人々である。IT 機器を使用できない者、資金が乏しい者は、泣き寝入りするしかないのであろうか。

受験生には、弱者の置かれた状況を考慮し、自らが考えた解決策を記すことを期待する。

小論文 2

農作業中の事故に関する課題文を題材とした問題である。まず、課題文から事故の増減状況についての統計数字を的確に読み取ることが必要である。そして、課題文が、事故の原因として挙げている点や防止策をまとめ、それを踏まえて自己が考える防止策を説明することが求められる。

受験生にとっては余りなじみのない分野と思われるが、社会で生起する問題について、ど

のような観点から考えるべきかが問われる。

第5期 出題趣旨

小論文1

昨今、地球温暖化や異常気象への注目が集まっている。身近なところでは、ゲリラ豪雨、線状降水帯による大雨、夏期における猛暑などによって、人々の生命・生活に影響が出ている。

我が国は、今のところ、これらの環境変化に何とか対処できているようであるが、将来、地球規模での環境変化に抗うことができるかは定かでない。人間と異なり、動植物は急激な環境変化に対して脆弱である。動植物は食物連鎖の中で密接な関係にあり、ある種が減びると、一見無関係と思われる種にもその影響が及ぶ。

受験生には、生物の多様性・関連性、環境が動植物に与える影響、地球規模のエネルギー循環、人間の経済活動等を念頭に置きつつ、自由な発想で、しかしながら論理的な解答を期待する。

小論文2

小論文2の課題文は、世界各地で相次いで発生している熱波や干ばつ、洪水などの自然災害の背後にあるとされる地球温暖化に対するさまざまな取り組みを紹介するとともに、地球温暖化対策には、個々人の行動変容も必要となると指摘するものであるが、この課題文を素材に、地球温暖化に対する取り組み方法についての課題文の提言を要約して記載してもらうとともに、その課題文の提言についての解答者の見解を記述してもらう問題である。

課題文の内容とその見解についての読解力、読み取った内容の表現力、課題文の見解に対する解答者の考えの内容やその表現力を評価の対象とする出題である。